

1 「総合単元的な情報モラルの指導」の考え方

(1) 学習指導要領における道德教育と情報モラルの指導の関連

新学習指導要領では、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の重要性を強調し、その一層の充実を図るため、引き続き道德教育の全体の目標を総則に示した。

小学校及び中学校では、道德の時間を要として全教育活動で道德教育に取り組むことが一層明確になり、道德の時間と特別活動をはじめとした各教科等における道德教育との密接な関連を図りながら、年間指導計画に基づき、計画的、継続的に進めることとなっている。

高等学校では、道德の時間は設定されていないが、道德教育の充実を図る観点から、道德教育の全体計画を作成することとなり、小・中学校における道德教育の指導を基に、教育活動全体を通して、発達の段階に応じた道德教育を行うことが求められている。

また、小学校及び中学校学習指導要領では、情報モラルの指導について次のように示されている。

(「第3章 道德」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の3)
 (5) 児童（生徒）の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す道德の内容との関連を踏まえ、情報モラルに関する指導に留意すること。

したがって、情報モラルの指導は道德の時間と密接に関連付けながら行う必要があるとともに、すべての教育活動で行われるべきものである。

(2) 「総合単元的な情報モラルの指導」の必要性

情報モラルの内容は多岐にわたるため、各教育活動における情報モラルの指導が個々に行われるのでは十分な効果が得られず、特に心に迫る指導が不足することがこれまでの当教育センターの研究から課題として挙げられている。

道德の時間は、道德的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることを通して道德的実践力を育成する時間であることを踏まえ、例えば、ICTの使い方やインターネットの操作、危険回避の方法やその際の具体的な行動にその主眼を置くのではないことに留意する必要がある。

一方、児童生徒に情報モラルの重要性を実感させ、「心を磨く領域」の指導を充実させるには、各教科等においてインターネットで実際に、あるいは疑似的に操作体験したり、調べ学習を通して情報の収集から発信までを実際に行ったりするなどの「情報社会における体験活動」を通じた「知恵を磨く領域」と関連付けて行うことが必要である(図14)。

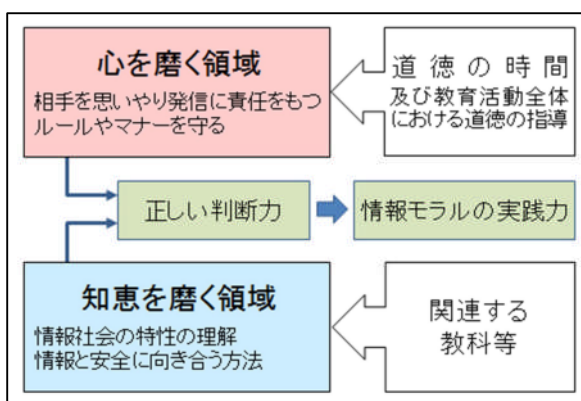


図14 「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」の関連付け

そこで、次頁図15のように、小・中学校では事前に「情報社会における体験活動」を通して主として「知恵を磨く領域」の指導を行い、それを基に、主に「心を磨く領域」の課題を中心に道德的実践力を育成することをねらいとした「道德の時間」を中核として位置付ける。体験の意味や結果を振り返り、自己を見つめる活動が深まることで、自分自身で正しく判断するための考え方や態度を身に付けさせることができると考える。

さらに、事後に「知恵を磨く領域」の指導を位置付けることで、身に付けた考え方や態度を実践力として高めることができると思う。

このように、「心を磨く領域」も「知恵を磨く領域」も共に意識しながら日常的かつ体系的に指導するためには「道徳の時間」を中核として他の教育活動における情報モラルの指導を有機的に関連付け、総合単元的に指導すること（以下、「総合単元的な情報モラルの指導」という）が有効であると考えた。

なお、高等学校では道徳の時間がないので、特別活動を中核とした「総合単元的な情報モラルの指導」を行う。

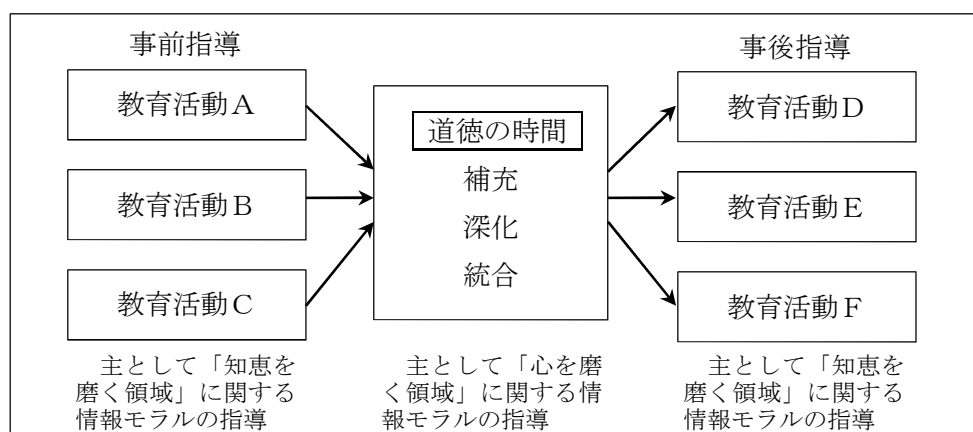
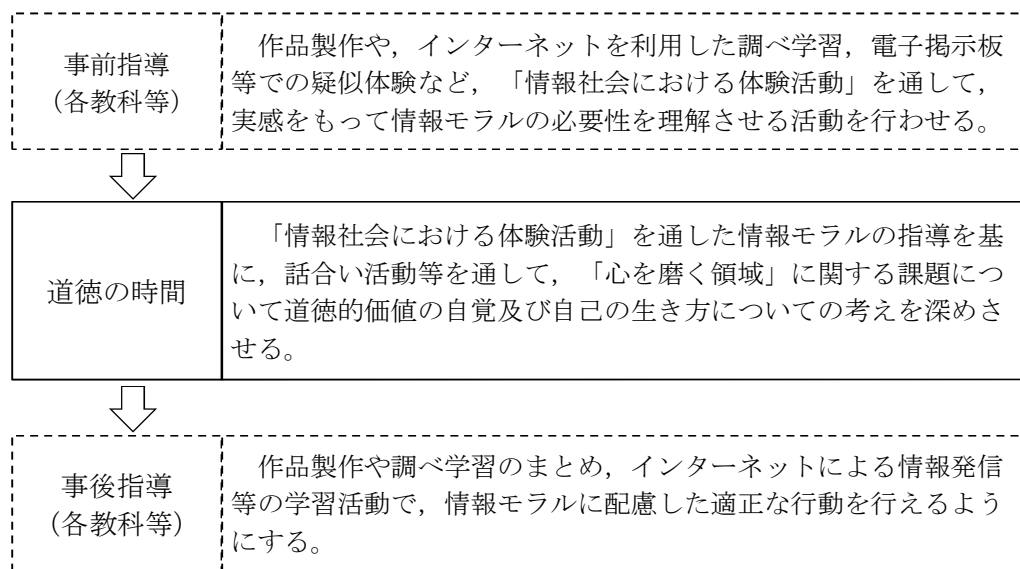


図15 道徳の時間を中核とした「総合単元的な情報モラルの指導」のイメージ

(3) 指導の流れ



(4) 総合単元的な指導計画の構想手順

総合単元的な指導計画の構想は、次のような手順で行う。

- ① 児童生徒の情報モラルに関する実態を把握する。
- ② 情報モラルに関する学習活動を各教科、特別活動、総合的な学習の時間などから選び出し、教科等のねらいと情報モラルの指導内容の関連、それぞれの学習活動の関連を検討する。
- ③ 選び出した学習活動を吟味し、目標の達成に深く関わるものだけに精選し、児童生徒の意識の流れを想定しながら、各活動における情報モラルの指導の関連を整理する。
- ④ 中核となる道徳の時間の位置付けと、事前・事後の指導内容を検討する。

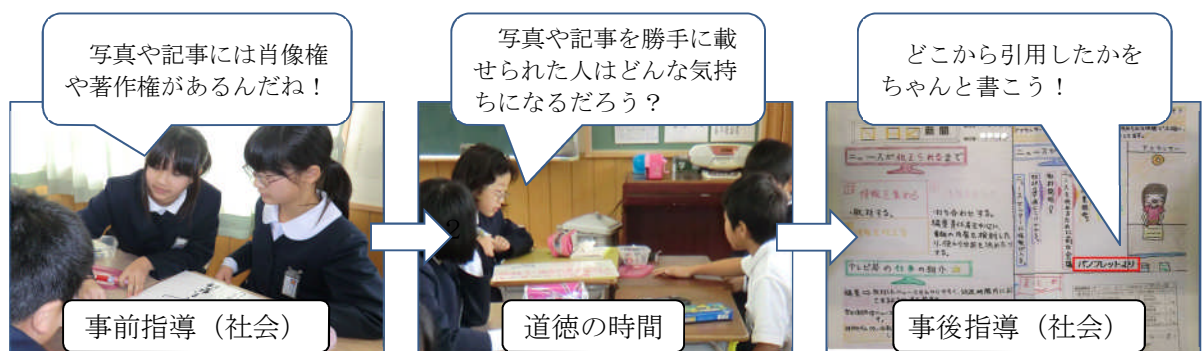
2 「総合単元的な情報モラルの指導」の実際

(1) 小学校の実践例（第5学年）


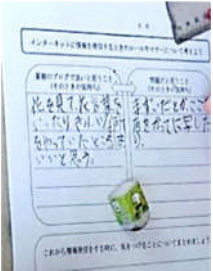
ア 指導計画


過程	教科等	単元・主題	情報モラルの指導のねらい	指導内容
事前指導	国語	新聞の編集の仕方や記事の書き方に目を向けよう (4月)	・情報にも自他の権利があることを知り，尊重する。	・複数の新聞記事の読み比べにより，編集の仕方や書き方に注意して情報を読み取らせる。 ・話題を決めて収集した知識や情報を関連付けて話をさせる。 ・資料を提示しながら説明させる。
	社会	わたしたちの暮らしと国土（住みよい暮らしと環境） (6月)	・情報にも自他の権利があることを知り，尊重する。	・異なる地域の人々の生活を自分たちの地域の生活と比べながら具体的に調べさせる。 ・教科書や資料の写しでない自分なりの新聞づくりを行わせる。
本時	道徳	責任ある情報発信 (9月)	・他人や社会への影響を考えて行動しようとする。 ・情報にも，自他の権利があることを知り，尊重する。	・インターネットで情報発信する際のルールやマナーを考えさせる。 ・ブログの例を見て，よい所や悪い所を考えさせる。
事後指導	国語	自分の考えをまとめて，討論しよう (9月)	・不適切な情報であるものを認識し，対応できる。 ・情報にも自他の権利があることを知り，尊重する。	・自分の考えをまとめて，討論させる。 ・自分の課題について調べ，意見を書かせる。
	社会	暮らしを支える情報 (10月)	・他人や社会への影響を考えて行動しようとする。 ・「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り，尊重する。 ・情報にも，自他の権利があることを知り，尊重する。	・情報産業について調べ，情報化の進展が自分たちの生活や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを理解させる。 ・情報通信ネットワークを有効に利用している事例について調べ，自分たちの生活に様々な影響を及ぼしていることを理解させる。

イ 「総合単元的な情報モラルの指導」のイメージ



ウ 本時の実際

主 題 名	責任ある情報発信（４－(1) 規則の尊重・公德心）		
主 題 の 目 標	情報を発信する際にはルールやマナーがあることを理解し，社会のためになる責任ある情報発信をしようとする心情を育てる。		
情報モラルの指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他人や社会への影響を考えて行動できるようにする。 ・ 情報にも，自他の権利があることを知り，尊重できるようにする。 		
使 用 教 材	春野家 ケータイ物語 第5話 「情報を発信するのに守ること」（独立行政法人メディア教育開発センター）		
過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
気付く	<p>1 本時の課題を知る。</p> <p>● 発問1 _____ インターネットで情報を発信する方法を知っていますか。</p> <p>_____</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ ・ ブログ ・ ツイッター ・ 掲示板 <p>インターネットで情報発信するときのルールやマナーについて考えてみましょう。</p>	10分	<p>事前のアンケート結果から，情報発信が身近な話題であることを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校のホームページから発信したことも想起させる。 ・ 「用語解説」を使って，簡単に説明を加える。 ・ ブログが情報発信するための身近な情報手段であること，ケータイでもブログを簡単に発信できることに気付かせる。 ・ 手軽な情報発信によって，トラブルが起きていることにも気付かせ，本時の課題につなげる。
考える	<p>2 ドラマを見て考える。</p> <p>(1) ドラマを見る。</p> <p>(2) ストーリーを整理する。</p> <p>(3) 夏樹のブログについて，よさや問題だと思ふことについて話し合う。</p>  <p>● 発問2 _____ 夏樹のブログで，いいなと思ったことはありますか。</p> <p>_____</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 花やパンケーキ，妹の記事を簡単に発信することができた。 ・ ブログのおかげでアメリカの友だちと交流できた。 ・ キャラクターの情報交換が簡単にできた。 	23分	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドラマの本編だけを視聴させる。 ・ キーシーンを提示しながらストーリーを確認する。 <p>映像を視聴しながら，夏樹の行動や気持ちを共感的に理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに「問題だと思ふこと」，「いいなと思ふこと」を記入させる。 ・ ブログの問題点にばかり目を向けさせるのではなく，よさについても気付かせる。

	<p>● 発問 3 <u>どんなことが問題だと思いますか。</u></p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターの画像を許可なく公開していたこと。 ・妹の写真を断りなく公開していたこと。 ・パンケーキが焦げていたお店の情報を公開していたこと。 <p>● 発問 4 <u>「問題だと思うこと」に対して、「こうすれば良かったのに」というアイデアを出してみましよう。</u></p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターの画像は、公開せず自分だけで楽しむ。 ・妹に断って、よければ写真を公開する。 ・パンケーキが焦げていたお店の情報は公開しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権や肖像権をもっている人に断りなくインターネット上で公開すること、また人の名誉や利益を損なうような情報をインターネット上へ発信することは、問題であるということに気付かせる。 ・代案を考えさせることで、ブログで公開すべき情報とすべきではない情報を意識させる。 ・「他の人に迷惑をかけない」「人を傷つけない」、「著作権などのルールを守る」という三つの視点から代案を考えさせる。 ・妹だけでなく保護者の許可が必要となる場合もあることを補足する。 (本校の情報発信規約を提示する。)
深める	<p>3 まとめる。</p> <p>● 発問 5 <u>これから情報発信するとき、どんなことに気を付けますか。</u></p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信するときは、肖像権や著作権を必ず守る。 ・ルールを守りながら、皆の役に立つ正しい情報を発信していく。 	<p>7分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語解説を参考に肖像権や著作権について簡単にまとめておく。 ・情報発信する際にどんなことに気を付けるべきかについて考えさせ、本時のまとめとする。 ・肖像権や著作権等の他人の権利を守りながら、信憑性ある情報を発信していくことが豊かな（情報）社会を作るために必要であることに気付かせる。
見通す	<p>4 感想を書く。</p> 	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに感想を記入させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>心に残ったことや考えたことを書かせる活動を通して、道徳的実践力が高まるようにする。</p> </div>

エ 考察

調べ学習やまとめ学習を行う際には、著作権や肖像権等について指導できる場面が多くあるので、本時の学習内容との関連を意識しながら具体的な指導を行うようにした。

本時の導入で、その体験を想起させることで、著作権や肖像権に関する問題を自分のこととして捉えさせることができ、事後に行った発表資料をまとめる際には、著作権や肖像権に配慮するとともに、自分なりに表現を工夫して作成しようとする意欲をもって取り組ませることができた。

これらの学習は日常的に行っていることだが、情報モラルに関する学習を意図的に道徳の時間と関連付けて指導することで、実践的な態度として身に付けさせることに効果的であったと考える。

(2) 中学校の実践例 (第2学年)


ア 指導計画


過程	教科等	題材・主題	情報モラルの指導のねらい	指導内容
事前指導	技術 家庭 (技術分野)	情報の収集・ 発信の際のルールとマナーについて考える (7月)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の信憑性を吟味できる。 自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子メールや電子掲示板の疑似体験ができるWebサイトを利用して、情報の収集・発信に関するトラブル等の体験を通して、ルールやマナーの必要性を理解させる。
本時	道徳	思いやりの心 (10月)	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動しようとする。 個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する。 	<ul style="list-style-type: none"> ネット上のいじめについて、被害者・加害者・傍観者それぞれの心情を考えながら、このような場面に遭遇したときの正しい行動について理解させる。
事後指導	学級活動	生涯を支える健康と安全 (ネット上のいじめについて) (11月)	<ul style="list-style-type: none"> 安全性の面から、情報社会の特性を理解できる。 トラブルに遭遇したとき、主体的に解決できる方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子掲示板による誹謗中傷は犯罪であることや、警察が介入すると誰が書き込んだか判明することなどを理解させる。

イ 「総合単元的な情報モラルの指導」のイメージ



ウ 本時の実際

主 題 名	思いやりの心（４－（１）規則の尊重・公德心）		
主 題 の 目 標	身近な人が、ネット上のいじめを受けていることを知ったとき、どのように行動すればよいかを考える。		
情報モラルの指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報社会における自他の責任や義務について考え、よりよい行動ができるようにする。 ・ 個人の人格権、肖像権などを尊重する態度を養う。 		
使 用 教 材	春野家 ケータイ物語 第8話 「立ち上がれ！ ひきょうな書き込み 深まるキズナ」（独立行政法人メディア教育開発センター）		
過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	<p>1 電子掲示板の書き込み経験を想起する。</p> <p>2 ネット上のいじめについて知る。</p>  <p>3 学習目標を設定する。</p> <p>電子掲示板を利用する上で、気を付けなければならないことは何だろうか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子掲示板の便利な点、問題点について、事前学習等で経験したことを想起させる。 ・ 「ネット上のいじめ」の定義を説明する。 ・ ネット上のいじめの認知件数を提示し、誰の身にも起こりうるものであることを理解させる。
展開	<p>4 ビデオを視聴する。</p> <p>5 掲示板に悪口を書かれた啓太の気持ちや他の人の気持ちを考える。</p> <p>● 発問 1 _____ 「自分の悪口が書かれていることを知ったとき、啓太はどんな気持ちだったのだろうか。」</p> <p>_____</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 悔しい ・ 悲しい ・ つらい ・ 不安 ・ なぜこんな目に遭うのか ・ 何も考えられない ・ やり返してやる <p>6 掲示板に書き込んだ人の気持ちを考える。</p> <p>● 発問 2 _____ 「啓太と同じクラスメイトだった場合、あなたは、その後どうしますか。」</p> <p>_____</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒になって書き込む ・ 何もしない ・ 助ける 	40分	<p>被害者の立場の心情を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰が書いたか分からないという不安な気持ちを理解させる。 ・ 啓太の怒りや悲しみなど、行き場のない心の状態を理解させる。 <p>第三者の立場の心情を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの設定の立場から、なぜそのような行動を取るかを考えさせる。

	<p>● 発問 3 ————— 「それぞれの立場に分かれ、そのようにする理由をグループで話し合しましょう。」</p> <p>● 発問 4 ————— 「話し合ったことを発表しましょう。」</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白いから ・誰が書き込んだか分からないから ・助けてあげたいけど、自分がいじめられたらどうしよう ・かわいそうだけど関わらないでおこう ・いじめるのはよくない <p>● 発問 5 ————— 「他の立場に対する質問や意見を出してください。」</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もしないのはいじているのと一緒にだ ・なぜいじめができるのか ・本当に助けられるのか <p>● 発問 6 ————— 「それぞれの立場で考え、その中で思ったこと、感じたことはないですか。」</p> <p>【予想される反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら書かない ・誰か分からなければ書き込む ・ふざけるだけだからいい <p>7 自分としては、どうするか最終的な意見を述べる。</p> <p>8 ビデオの続きを視聴する。</p>  <p>9 自分だったら友人に対してどのようなことをしてあげられるかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた意見を基に、グループで話し合わせる。 ・助けたい気持ちと、巻き込まれたくないという気持ちの葛藤があることを理解させる。 ・人の気持ちを全く考えず、「面白そう」、「悪ふざけ」、「ばれなければいい」といった気持ちになることに気付かせる。 ・他の立場の意見に対して、なぜそのように考えるかの質問や意見を述べさせる。 ・自分の意見と異なった立場で考えた中で感じたこと等を述べさせる。 ・自分に置き換え考えさせる。 ・友人がなぜそのような行動を取ったのかを考えさせる。 ・啓太の思いの変化に気付かせる。 ・自分にできることを考えさせる。
終末	<p>10 電子掲示板を利用する上で、気を付けなければならないことを考える。</p> <p>11 感想をワークシートに書く。</p>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子掲示板は、公共的なコミュニケーションの場であり、他への思いやりや配慮が欠かせないことを理解させる。

エ 考察

事前の調査結果から、生徒のインターネット利用状況には差があり、中には自分のブログをもっている生徒もいるが、実際にブログや電子掲示板等へ書き込みをした経験のある生徒は少ない。そこで、事前指導で情報モラル教材を利用した電子掲示板等の疑似体験をさせたところ、その便利さや問題点について、実感をもって理解させることができた。

そのことで、本時のDVDの事例を身近で起こり得ることとして捉え、それぞれの立場の心情を自分のこととして考えることができた。

また、事後指導では、「情報の科学的な理解」の側面から、法律等の理解や問題に直面したときの対応の仕方などを学習することで、情報手段を正しく活用していこうとする態度を育成することができたと考える。

(3) 高等学校の実践例（普通科第1学年）

ア 指導計画

過程	教科等	単元等	情報モラルの指導のねらい	指導内容
事前指導	情報A	情報社会の中の個人 (4月)	・ 情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動しようとする。	・ 個人情報保護法等について調べさせる。 ・ アンケートにより実態を把握させる。
	特別活動	ネットいじめについて考える (いじめ問題を考える週間) (4月)	・ 個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する。	・ ネットいじめの現状や、被害者及び加害者の心情について考えさせる。
	総合的な学習の時間	サイバー犯罪被害防止に関する講話 (6月)	・ 情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、適切な行動ができる。	・ 外部講師（県警生活安全課）によるサイバー犯罪に関する講話を聞かせる。
本時	特別活動 (ホームルーム活動)	「情報モラル」について (9月)	・ 情報社会において、責任ある行動をとり、義務を果たそうとする。 ・ 個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する。	・ 携帯電話やインターネットに関するトラブルの原因について考えさせる。 ・ 問題に関する法的責任について考えさせる。 ・ 情報発信の際に留意することを考えさせる。
事後指導	特別活動	生活実態調査を踏まえて (10月)	・ 自他の安全面に配慮した、情報メディアとのかかわり方を意識し、行動しようとする。	・ 生活全般に関する調査（携帯電話の利用も含む）を踏まえた指導を行う。

イ 総合単元的な情報モラルの指導のイメージ

事前指導（総合的な学習の時間）

ネットいじめは深刻な問題だ！
自分もいつかは危険な目に合うかもしれない！

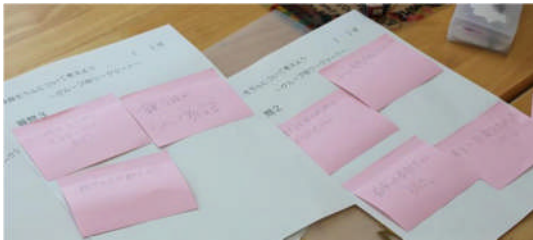
特別活動

ルールや責任についてこれまであまり真剣に考えていなかった！

事後指導（特別活動）

自分で正しく判断できるようになって、上手に活用していこう。

ウ 本時の実際

題 材	情報モラルについて考える		
題 材 の 目 標	情報技術を活用するための知識と技術の習得を通して，モラルやマナーを考え，情報社会における見方や考え方を育成する。		
情報モラルの指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会において，責任ある態度をとり，義務を果たせるようにする。 ・個人の権利（人格権，肖像権など）を理解し，尊重できるようにする。 		
使用教材等	携帯電話の利用に関する保護者アンケート及び生徒アンケートの集計結果		
過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	<p>1 携帯電話でできることを考える。 →携帯電話の便利な点について意見を整理する。</p> <p>2 最近の携帯電話やインターネットが関与したトラブルの例を知る。 →どうしてこのようなトラブルが起こったのかワークシートに記入し，発表する。</p>  <p>3 本時の学習内容と目標を理解する。</p>	10分	<p>情報Aや特別活動で学習したことを振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見が出やすい雰囲気をつくる。
展開	<p>4 保護者アンケートと生徒アンケートの結果について考える。 →結果の違いについて思うことをワークシートに記入し，発表する。</p> <p>5 未成年者の責任能力と保護者の法的責任について考える。 →保護者の責任が重いことについて思うことをワークシートに記入し，発表する。</p> <p>6 インターネット上での不用意な情報発信が時間的，空間的制約を超えて広がることを知る。 →情報発信の際に留意することをワークシートに記入し，発表する。</p>	35分	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の意見を批判しないように注意する。 ・原動機付自転車の免許取得と比較させる。 ・安易な利用によって生じる問題を知り，加害者や被害者になることがないようにさせる。

			
まとめ	<p>7 本時のまとめをする。</p> 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化社会の恩恵を享受できるような情報機器の使い方を身に付けさせる。

エ 考察

情報モラルの指導は、主に普通教科「情報」の時間に行っているが、生徒指導や人権教育など、他の教育活動の中でも個々に行われている。これらを効果的に関連付けるための計画を立て、総合的な学習の時間や生徒指導の一環として毎年行っている統一ホームルーム等で「ネットいじめ」や「サイバー犯罪」に関する指導を事前学習として行った。

本時では、これらのことを土台にし、アンケート調査による生徒と保護者の意識の違いにも触れながら、情報社会におけるルールや責任について考えさせた。それぞれの指導を意図的に関連付けたことで、学校全体で取り組んでいるという意識をもたせることができ、自分と保護者の責任について真剣に考えさせることができた。

事後指導でも、生徒指導部と連携した統一ホームルームの中で、情報モラルも含めて自己の生活を見直す指導を通して、自他の関わりを認識しながら正しい行動を行う態度を身に付けさせることができたと考える。